

れた低温での障害を避ける。

- (2) データの圧縮性を高め 16kB のままで 1 年分のデータが取れるようにする。
- (3) 電池の接続にコネクタを使用し、短絡などの事故を防ぐ。

また、みずほ基地は前進拠点よりも 10°C ほど気温が高いため、風力発電機での保温をやめて、雪中に埋まった基地建物の保温性にまかしている。第 29 次隊との交代のとき (1988 年 1 月) にデータは回収される予定である。

謝 辞

風力発電機に関しては、湯浅電池 (株) の松本完氏に御世話になった。現地での設置にあたっては国立極地研の吉田治郎隊員を始め、内陸旅行隊全員の協力を得た。ここに記して、謝意を表します。

文 献

- 上田 豊 1986: 内陸ドームから、あすか拠点へ。極地, 43, 28-33.
- Dalrymple, P.C. 1966: A physical climatology of the Antarctic Plateau. Studies in Antarctic Meteorology, Antarct. Res. Ser., 9, ed by Rubin,

- M.J., Am. Geophys. Union, 195-231.
- Endoh, T., G. Wakahama, S. Kawaguchi, M. Sano and T. Kikuchi, 1987: Trial operation of a simple automatic weather station at Asuka Camp., Antarctica. Proc. NIPR Symp. Polar Meteorol. Glaciol., 1, 103-112.
- Fujii, Y., K. Kawada, M. Yoshida and S. Matsumoto, 1986: Glaciological research program in East Queen Maud Land, East Antarctica, Part 4, 1984. JARE Data Rep., 116, (Glaciol. 13), 71 p.
- 東 晃 1981: 南極東クィーンモードランド雪氷研究計画について。雪氷, 43, 129-130.
- 勝田 豊・寺井 啓 1986: 南極用低消費電力データ収録器の開発。南極資料, 30, 175-188.
- Kikuchi, T. and Y. Ageta 1987: Glaciological research program in East Queen Maud Land, East Antarctica, Part 6, Advance Camp, 1985. JARE Data Rep., 129, (Glaciol. 15), 104 p.
- Kikuchi, T., T. Shimamoto, F. Okuhira and Y. Ageta 1986: Meteorological Data at Mizuho Station, Antarctica in 1985. JARE Data Rep., 120, (Meteorol. 19) 78 p.
- Stearns, C.R. and G.A. Weidner 1985: Antarctic automatic weather stations, austral summer 1984-1985. Antarc. J.U.S., 20, 189-191.

Polar Ozone Workshop のお知らせ

極域オゾンの変動に対する観測及び理論の最近の知見をまとめるため、右記によって国際研究集会在が計画されております。興味のある方は連絡次第英文案内書をお送りします。

記

日時: 1988年5月9~13日
 場所: 米国コロラド州アスペン
 アブストラクト切: 1988年2月28日
 紹介先: 気象研究所 忠鉢 繁 0298-51-7111
 (内線 348)

科学技術総合シンポジウム開催のお知らせ

日 時: 昭和63年3月16日 (水)~18日 (金)
 ところ: 日経ホール

(千代田区大手町 1-9-5, TEL. 03-270-0251)
 主 催: 科学技術庁